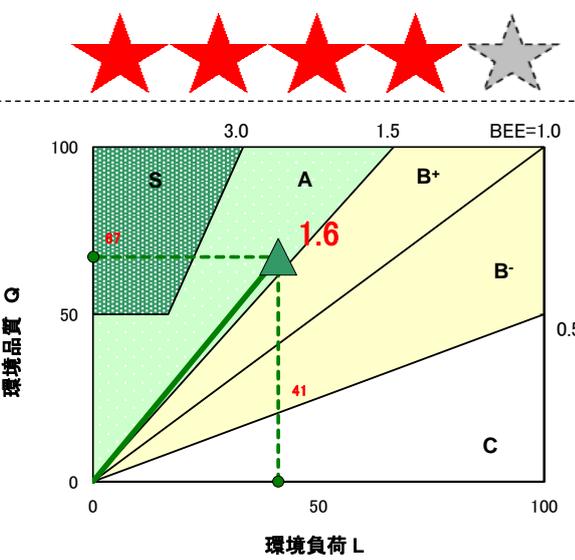


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	天草市複合施設	階数	地上2F		
建設地	天草市浄南町62番の一部、66番-10	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	XXX 人		
気候区分	7地域	年間使用時間	XXX 時間/年		
建物用途	事務所,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年5月29日		
敷地面積	19,383 m ²	作成者	山本		
建築面積	4,605 m ²	確認日			
延床面積	5,261 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.6

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

★★★★★

排出率

92%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

96

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

91.7

91.2

107.5

99.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	天草市複合施設	階数	地上2F
建設地	天草市浄南町62番の一部、66番-1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	XXX 人
地域区分	7地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年5月29日
敷地面積	19,383 m ²	作成者	山本
建築面積	4,605 m ²	確認日	
延床面積	5,261 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 92%
③上記+②以外の 92%
④上記+ 92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 96

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 91.7

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 99.7

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 107.5

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 99.7

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
多彩なアクティビティを受け止めるおらかな庭で地域に貢献。図書館、保健福祉センター、市民活動の場の3用途を複合する事で多世代の交流を促進。自然採光、自然換気、眺望に配慮した建物形状と配置計画。天草市産の流通材（スギ、ヒノキ）を積極的に活用。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Low-e複層ガラスの採用、ハイサイドライトによる昼光利用、明るさセンサによる、初期照度補正及び適正照度補正、F☆☆☆☆の積極的な採用

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている、喫茶ラウンジの計画、自動販売機の設置、建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する、高い階高の確保

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
まちなみへの調和、植栽、地域産材の活用などに配慮した。既存地形の利用、地域産材の活用、地域貢献、中間領域の形成に配慮した。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
BPlm=0.79、ハイサイドライトによる自然採光の確保と自然換気システム。熱源、空調機単位の電力消費量・熱量を軽量、システム効率評価が可能。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
自動水栓、節水型器具の採用。屋根面を構成する木梁に製材を採用。広葉樹（スギ、ヒノキ）を使用。躯体と仕上材が容易に分別可能。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
駐輪場、駐車場、荷捌き用駐車スペースの確保、光源は高効率の高いLEDを採用し、輝度の低い乳白グローブを採用。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 天草市複合施設

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		96
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.7	0.40	36.68
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				91.2	0.20	18.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	5.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				107.5	0.20	21.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				99.7	0.20	19.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
天草市複合施設

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.6
Q1 室内環境							0.40			3.5
1 音環境						3.3	0.15			3.3
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音				T-2以上		3.9	0.40			
1 開口部遮音性能						5.0	0.75	3.0		
2 界壁遮音性能						1.0	0.25	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0		
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0		
2 温熱環境						3.2	0.35			3.2
2.1 室温制御						3.5	0.50			
1 室温				窓システム…SC=0.3、U=1.5W/m ² K 外壁その他…U=1.124W/m ² K		3.0	0.38	3.0		
2 外皮性能						5.0	0.25	3.0		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境						3.2	0.25			3.2
3.1 昼光利用						3.4	0.30			
1 昼光率						3.0	0.60	3.0		
2 方位別開口							-	3.0		
3 昼光利用設備				ハイサイドライトにより、2階図書館、1階吹抜け部に採光		4.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策						3.0	0.19			
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0		
3.3 照度				明るさセンサによる、初期照度補正及び適正照度補正		4.0	0.17	3.0		
3.4 照明制御						3.0	0.34	3.0		
4 空気環境						4.2	0.25			4.2
4.1 発生源対策						5.0	0.50			
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の積極的な採用		5.0	1.00	3.0		
4.2 換気						3.6	0.30			
1 換気量				外気供給量を30m ³ /h人としている		4.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮				汚染源のない方に空気取り入れ口を設け、かつ各排気口と6m以		4.0	0.33	3.0		
4.3 運用管理						3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				CO ₂ 監視制御を導入し、当該制御に関する取扱説明書を用意してい		5.0	0.50			
2 喫煙の制御						1.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			3.7
1 機能性						3.9	0.40			3.9
1.1 機能性・使いやすさ						3.7	0.40			
1 広さ・収納性						1.0	0.21	3.0		
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.21	3.0		
3 バリアフリー計画				バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている。		5.0	0.58			
1.2 心理性・快適性						4.1	0.30			
1 広さ感・景観				喫茶ラウンジの計画、、自動販売機の設置		1.0	0.21	3.0		
2 リフレッシュスペース				コンセプトの設定、照明計画と内装計画の一体化		5.0	0.21			
3 内装計画						5.0	0.58			
1.3 維持管理						4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				維持管理に配慮した取り組みを6項目行っている。		4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				維持管理用機能の確保の項目を4項目行っている。		4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30			3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				タイルカーペット、ビニル床シート(20年)		5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				屋外露出・多湿箇所・暗渠内のダクト材質をガルバリウム鋼板製とし		5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管、排水管に塩ビライニング鋼管(Bランク)を使用		4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				冷温水発生機:20年、空調機:20年		4.0	0.20			
2.4 信頼性						3.8	0.20			
1 空調・換気設備				1.換気設備・発電機回路、3.耐震クライテリア:Sクラス		5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				耐震クラス:S		5.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.3	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	4.5m	5.0	0.38	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.17	4.0	0.62	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	隠ぺい部は点検口やビット、埋設配管にて仕上げ材を痛めず更新が	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	隠ぺい部は点検口やビット、埋設配管にて仕上げ材を痛めず更新が	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみへの調和、植栽、地域産材の活用などに配慮した。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		既存地形の利用、地域産材の活用、地域貢献、中間領域の形成に配	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトによる自然採光と自然換気システム	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.91	2.4	0.50	-	-	2.4
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	熱源、空調機単位の電力消費量・熱量を計量、システム効率評価が	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		水栓:自動水栓、衛生器具:節水型器具	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		屋根面を構成する木梁に製材を採用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		製材、合板、フローリング、ボード、畳、断熱材、フリーアクセスフロア	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		広葉樹(スギ、ヒノキ)を使用	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能となっている	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		含有しない建材を7種類使用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	セラミライトエコGを使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.5
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入、高効率な空調の導入	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場、荷捌き用駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			1.9	0.33	-	-	1.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			1.0	0.40	-	-	
1	騒音		1.0	0.50	-	-	
2	振動		1.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光源は高効率の高いLEDを採用し、輝度の低い乳白グローブを採	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	